

〈多様な参画・連携の促進〉

「農地を守り活用するための連携協定」
について

〈活動組織の広域化〉

滝・金屋農業振興会（与謝野町）を
例にして

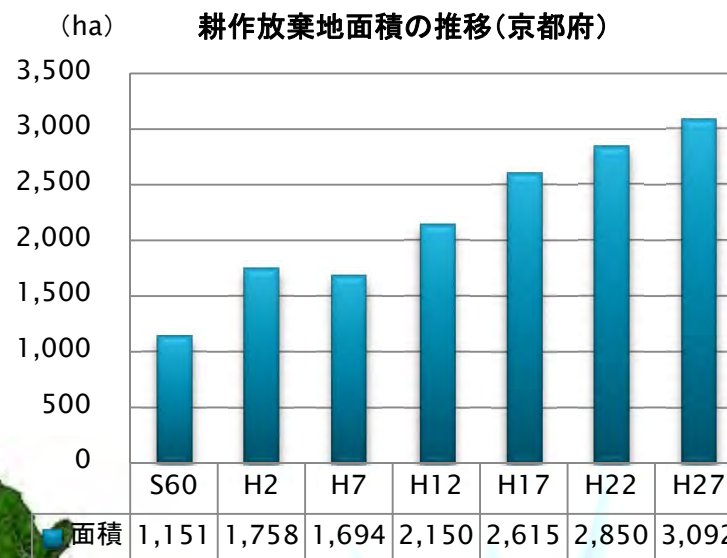
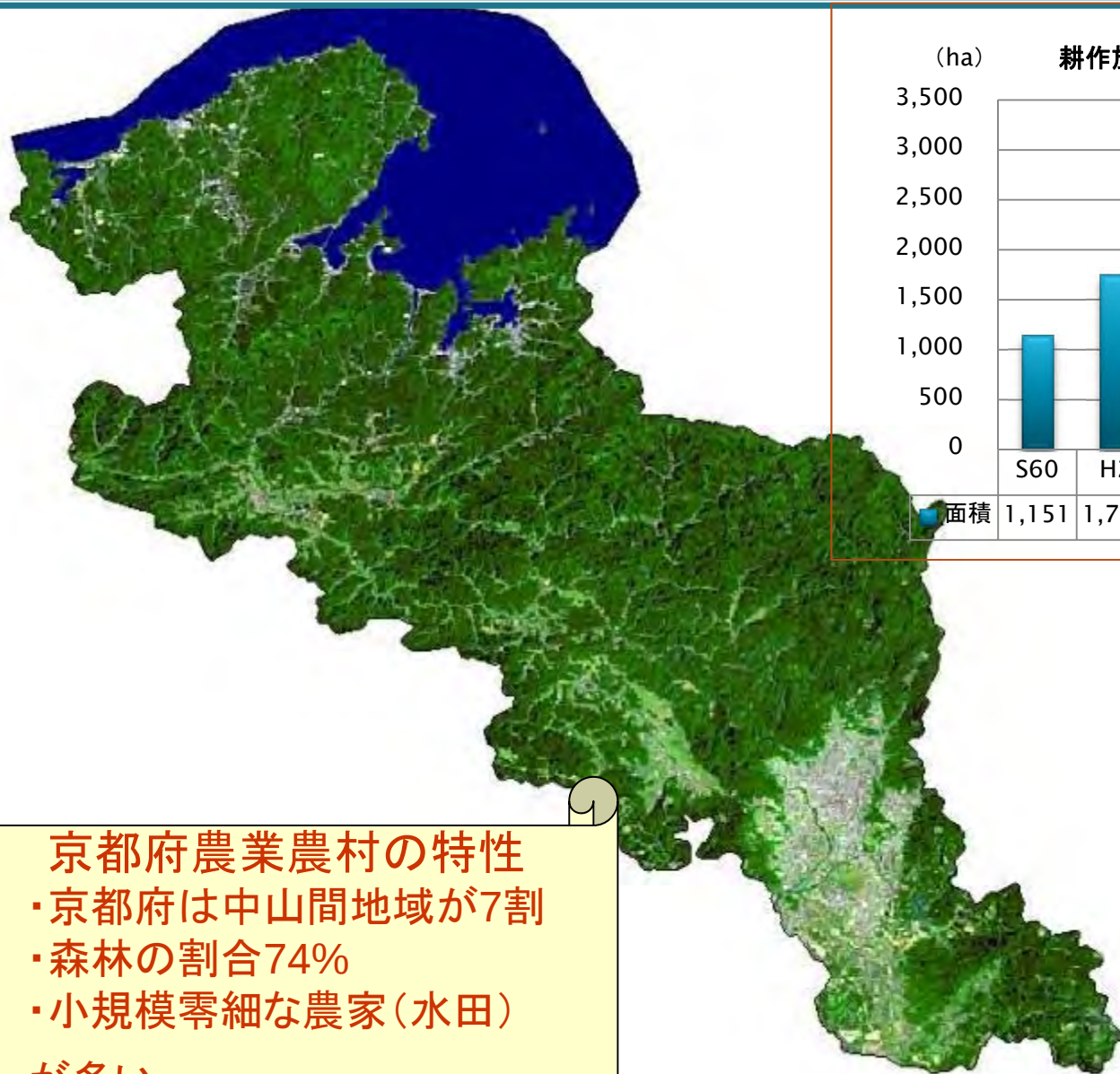
京都府農村振興課 地域活性化担当
副課長 長塩 泰治



農地を守り活用するために
連携して取組を進めています！



京都府農業農村の実態 ～2015センサス速報値を踏まえて～



府内農地の
1割が耕作
放棄地！
年々増加！

京都府農業農村の特性

- ・京都府は中山間地域が7割
- ・森林の割合74%
- ・小規模零細な農家(水田)

が多い

～人が住み営みを行うことで地域が守られている！～ 集落共同活動・維持管理(日本型直接支払)の27年度取組状況

■取組率は全国トップクラス(多面的機能支払)

農地維持：67.2% (全国8位) 共同：64.0% (全国6位)

長寿命化：61.7% (全国1位) ※取組率：取組面積／農振農用地面積

■しかし、減少の傾向が懸念される！(中山間地域等直接支払)

(対H26比186ha減 ▲3.6%)

→高齢化に伴い、向こう5年間農地を維持管理する自信がないことが主な理由

様々な地域の集落共同活動

農業生産と集落共同活動の
推進が求められている！

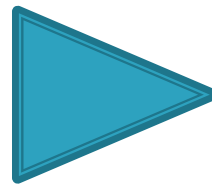


地域の農地を守り活用するためには！

【現状・課題】

- ・耕作する農地が分散し非効率、水管理が大変
- ・不在地主等の農地が耕作放棄地に
- ・高齢化、担い手減少
- ・水路、農道等施設が老朽化
- ・シカ、イノシシ、サルなどの鳥獣害

地域の将来
計画話し合い



人・農地プラン、地域資源
管理構想の作成へ

【対策】

- ・担い手（農業法人・個人）の育成
- ・担い手への農地集積
- ・地域共同活動推進
- ・土地改良事業を活用し、水路・農道修繕
- ・鳥獣害防止柵整備など

人・農地プラン、地域資源管理構想の作成から支援事業の活用へ

「農地を守り活用するための連携協定」

Before

- ★各組織が頑張っているけど
取組が進まない
 - ・農地中間管理事業
 - ・人・農地プランの作成、
見直し
 - ・地域資源保全管理構想の
策定
- ★耕作放棄地拡大

各取組は
対象地域が重なる
ミッションが共通

担い手の育成
担い手への農地集積
農地の適切な維持管理



これまでは縦割り

After

- ★協定で各組織が連携すること
でシナジー効果
- ☆広報の連携で新たなター
ゲットにPR
- ☆地域資源保全管理構想と
人・農地プランの双方の作
成促進
- ☆NN事業と農地中間管理事
業の双方促進

■協定日 平成28年9月5日

■連携組織

京都府農業総合支援センター

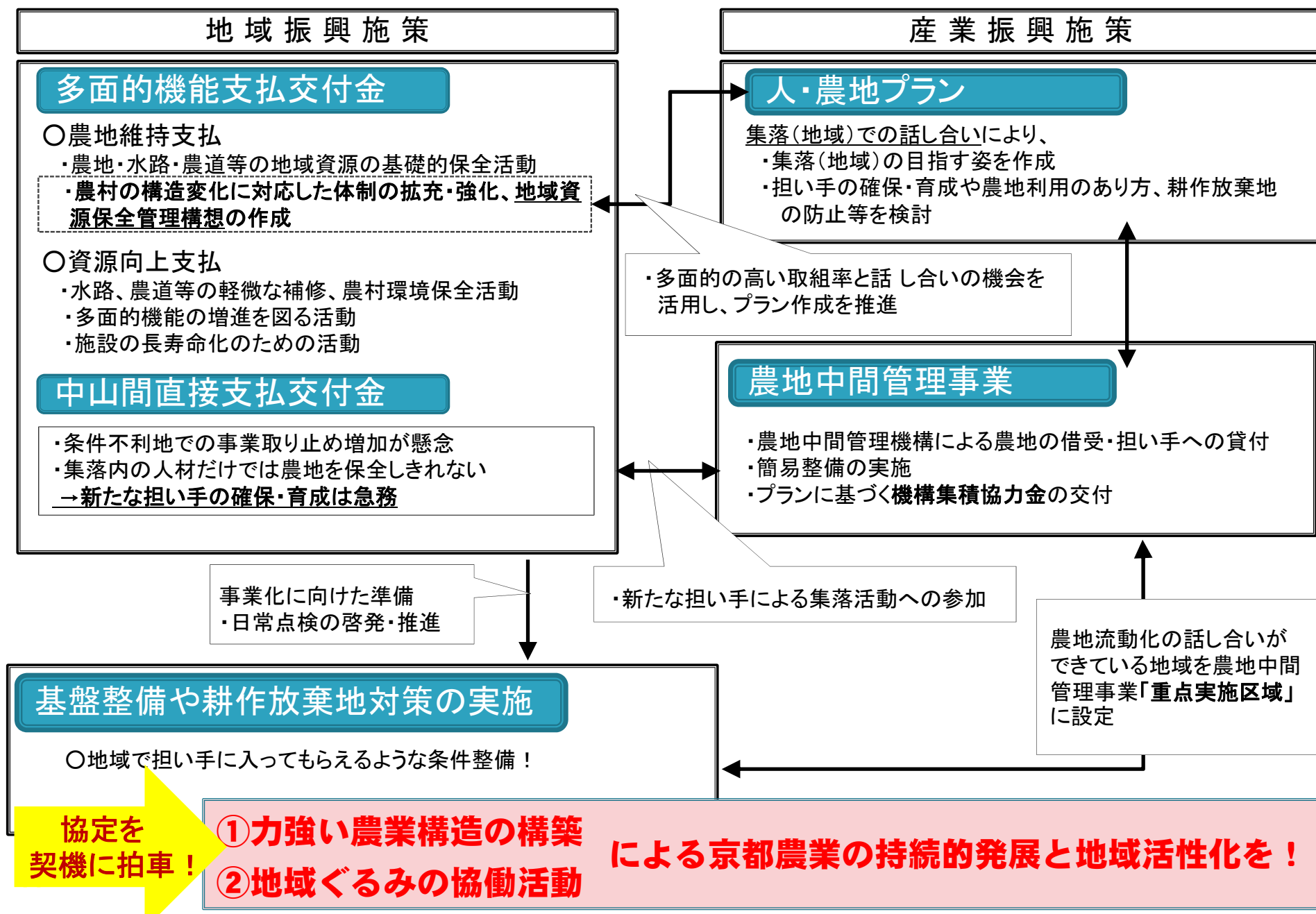
(京都府農地中間管理機構)

京都府土地改良事業団体連合会

京都府農地・水環境保全向上対策協議会

京都府担い手育成総合支援協議会

農地を守り活用するために連携して取組を進めよう！





〈活動組織の広域化〉

滝・金屋農業振興会（与謝野町）を
例にして



組織の概要

- ① 活動組織名：滝・金屋農業振興会
- ② 集落数：2集落（旧与謝村の2集落）
- ③ 人口：約1, 100人
- ④ 構成員：農業者90人、農業法人2社、
非農家5戸、団体6組織（区、農事組合など）



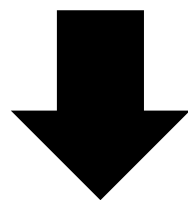
関連データ		
人口	1,071人(男534、女537)	
	0～14才	129人
	15～64才	564人
	65才以上	378人
経営耕地面積	104ha	
	水稲	74ha
	大豆	6ha

事業取組状況		面積(ha)
中山間直接支払		95
多面的	農地維持	104
	資源向上(共同)	
	資源向上(長寿命)	



広域化の動機・背景（農地）

金屋集落の担い手がいなかったことから、高齢化でリタイアした農家の農地は、滝集落の農業者、農業法人が耕作することになり、徐々に出入作が増え、平成20年ごろには金屋集落の農地の約8割を耕作



滝集落の意向を伺わないと、水路掃除など金屋集落の農業用施設の管理が出来なくなってきた。